

地方創生加速化交付金事業進捗評価調書(29年度実績)

担当課名	農林水産課
------	-------

【事業の概要】

交付金事業	「日出の幸」ブランド化ステップアップ事業(水産)		計画期間	総事業費	15,721 (9,273)
	事業目標	日出町産農林水産物の生産安定・消費拡大			
現状と課題	<p>・本町の水産業は、「城下かれい」「日出の鱧(はも)」「別府湾ちりめん」などブランド化は確立しているものの、近年の漁獲量の減少、魚価の低迷、漁業従事者の高齢化と減少など厳しい状況にある。</p> <p>・これまで、カレイの成長に欠かせないアマモの増殖研究や海中の水質調査などの取り組みを進めてきた。</p> <p>・牡蠣養殖やナマコの資源保護など、漁業者が主体的に取り組んでいる活動も増えている。</p>				
事業概要	目的	内容	<p>・町単独で行ってきた取組をさらに加速させるため、マコガレイの長期育成に努め、大型種苗の放流により漁獲量増加を図る。</p> <p>・併せて、牡蠣やナマコの養殖にも力を入れ、漁獲量増加、漁業者の収入安定を図る。</p> <p>・マコガレイの長期育成、大型種苗の放流試験</p> <p>・漁協日出支店が行う牡蠣養殖に対し補助を行い、生産及び出荷に必要な体制を整える</p> <p>・漁協日出支店が行うナマコの試験養殖を支援し、養殖環境の整備を行う。</p>		

【事業実施計画・実績】

(単位:千円)

事業実績及び年次計画			
年度	H28(実績)	H29(実績)	
実施計画	マコガレイ長期育成委託費等 ナマコ養殖池整備費 アマモ生育調査費 牡蠣振興補助金 特別旅費(アマモ現地研修会)	マコガレイ長期育成委託費等 アマモ生育調査費 牡蠣振興補助金	
事業費	9,341	6,380	
うち一般財源	68	6,380	

平成29年度の事業概要

・**マコガレイ長期育成事業**
給餌作業等を大分県漁協日出支店へと委託し、365日体制でマコガレイ稚魚の育成を行える体制を整備するとともに、クルマエビ養殖池跡地を活用した試験的な海面放流も継続した。

・**養殖池陸側整備事業**
大分県漁協日出支店が主体となり、近年安定して単価の良いナマコの蓄養環境を整えるため、クルマエビ養殖場跡地を活用を目的に、アマモ場の保全などを行った。

・**牡蠣振興補助金**
大分県漁協日出支店が主体となり、牡蠣の生産・販売に必要な出荷資材などの設備整備を行った。

【その他の関連事業】

事業目標のために関連するその他の事業
<p>・瀬戸内かれい広域牧場推進事業 県漁業公社が主体となって、別府湾全体の取組として8月・5cmまでの中間育成を行っている。「日出の幸」ブランド化推進事業では、日出町独自の取組として、15cmサイズを目標に8月以降の中間育成を行っている。</p>

【目標指標】

指標(KPI)	単位	基準値	年度		
			H28	H29	H30
マコガレイ漁獲量	トン	3	目標値	4	5
			実績値	2	2.5
ナマコ漁獲量	トン	52	目標値	60	70
			実績値	30	47
牡蠣漁獲量	kg	400	目標値	500	600
			実績値	972	360

【事業の達成状況と今後の展開について】

評価	事業の達成状況	
△	H28	H28年度については、全体的な不漁の中でKPI指標であるマコガレイ・ナマコの漁獲量についても落ち込み、目標を達成することができなかった。しかしながら、マコガレイについては、漁獲サイズ以下の資源量が増えているとの漁業者の声もあり、今後、放流効果の発現が期待できる。ナマコについても、本年度事業で蓄養池の整備を行い、今回のような不漁の年でも安定した供給を行える体制を整備した。 牡蠣については、H27年度に導入した殻落とし機の影響もあり、大幅に漁獲量を伸ばすことができた。本年度は牡蠣焼き用の焼き台や飲食スペース用のテントなどを整備し、販売体制の強化を行った。
×	H29	H29年度については、不漁傾向が続き、KPI指標である3魚種の漁獲量については目標値を下回った。マコガレイについては、漁獲サイズ以下の資源量が増えているとの漁業者の声もあり、今後、大型種苗の放流を継続したい。ナマコについては、日出町の三分の二の漁業者がナマコを獲っており貴重な収入源となっているため、引き続きクルマエビ養殖跡地を活用したナマコの増産につなげたい。 牡蠣については、H27年度に導入した殻落とし機により、作業効率はアップしているが、H29年度は杵築市の養殖牡蠣と同様に不漁となった。冬場の漁家の収入源として、引き続き牡蠣の振興につなげたい。

※評価:◎計画を上回る ○計画どおり △やや下回る ×不十分

【今後の方針・課題】

マコガレイについては、成長が遅く漁獲サイズになるまで3年前後かかるため、放流効果が漁獲量に反映されるに至らなかった。漁業者聞き取りによると、漁獲サイズ以下のマコガレイの資源量は増えているとの声が多いため、今後も継続して大型種苗の放流を続けたい。ナマコについては、H28年度整備したクルマエビ養殖池跡地を活用して安定的に供給できるよう、漁獲・出荷の体制整備を推進していきたい。牡蠣については、漁獲量増加を目指すとともに、H28年度整備した焼き台等を活用した販売体制の強化にも力を入れていきたい。また、町内では、農業面においてもカボチャやワサビなど、新たにブランド化に向けた取り組みが始まっている。これらの取組と協同し、農・林・水それぞれの産物を「日出の幸」として一体的に推進していく必要がある。今後は、他の水産関連事業による、藻場の保全、環境への取組や大神魚市場を中心とした日出産水産物の販売促進に努め振興を図りたい。